

レスキューロボットコンテスト 2025

チーム募集要項

主催：レスキューロボットコンテスト実行委員会
オフィシャルサプライヤー：サンリツオートメイション(株)

競技会予選 会期：2025年6月29日(日)
会場：咲州モリーナ 大阪府大阪市住之江区南港北 1-12-10

競技会本選 会期：2025年8月9日(土)～10日(日)
会場：神戸サンボーホール 兵庫県神戸市中央区浜辺通 5-1-32

1. 開催趣旨

「レスキューロボットコンテスト（略称：レスコン）」は、大規模都市災害における救命救助活動を題材としたロボットコンテストであり、「技術を学び 人と語らい 災害に強い世の中をつくる」を合言葉に防災啓発活動を行っているレスキューロボットコンテスト実行委員会により企画・運営されている。このコンテストの内容には、レスキューロボットを実現するために重要な技術的エッセンス：『遠隔操縦技術』、『対象物をやさしく扱う技術』、『複数のロボットの協調技術』等が盛り込まれている。さらには、人間の操縦技能やチームワークも重要な要素である。

このコンテストには、従来のロボットコンテストと同じように、創造性を育む場や機会を提供するという意義だけでなく、コンテストを通して、多くの人に防災や災害対応についての啓発や広報を図るという狙いがある。さらには、レスキュー機器を開発する研究者や技術者が思いもつかなかった新しいレスキューのアイデアが生まれることも期待している。

レスコン2025では、競技会予選及び競技会本選を、半倒壊となったビルや施設内部を模擬した1/4スケールのテストフィールドにて実施する。屋内に取り残された被災者を屋外に救出するために、障害物除去などの作業ミッション、被災状況報告などの調査報告ミッション、被災者を救出搬出する救助ミッションを定義し、レスキュー活動を行う。また、チームサポーター（参加チームの支援を主な目的とした協賛団体）による支援がある。支援内容については、別紙に示す。

2. 参加資格

レスコン2025の参加資格を表1で示す。チーム構成は、3名から7名、募集チーム数は28チーム、団体は教育機関の団体と有志団体共にチーム責任者が必要である。レスコン2025では予選を現地で開催する。近畿地方を拠点とするチームは競技会予選の現地参加を必須とする（現地参加上限数を超過した場合は、リモート参加）。近畿地方以外は現地参加を辞退することができる（リモート参加）。リモート参加の場合の本選進出枠は予選動画競技枠のみである。

表1 参加資格

項目	詳細
チーム構成	3名～7名
募集チーム数	28チーム(本選進出14チーム)
団体	教育機関の団体：所属する教育機関の教職員であるチーム責任者が必要 有志団体：18才以上のチーム責任者が必要
参加資格	以下の3つの必須条件を約束できるチーム
	必須条件1 競技会予選前の動画ファイル提出 必須条件2 競技会予選の参加 2.1 近畿地方(大阪府・京都府・兵庫県・奈良県・和歌山県・滋賀県・三重県)からの参加チームは、競技会予選への現地参加 ※ 2.2 近畿地方以外は現地参加を辞退することができる(リモート参加)。 必須条件3 本選進出チームは本選への参加 ※現地参加希望数が18チームを越えた場合は、書類選考上位から現地参加を選抜する。

3. 本選への進出枠

競技会本選は14チームで開催する。本選進出枠の数を表2に示す。主催者枠の2チームは、原則本選に進出することができる。参加チームの数によらず、予選現地競技枠でポイントの高い8チームを選抜する。予選動画競技枠として、上記本選進出チームを除くすべてのチームから予選動画競技のポイントの高い4チームを選抜する。

本選進出枠の数	チーム最大数	詳細	
主催者枠(書類審査)	2	2[予選現地競技参加必須]	主催者が2チームを選出。
予選現地競技枠 (現地予選枠チーム)	8	予選現地競技 18 (現地参加)	予選現地競技でポイントの高い8チームを選抜。※1
予選動画競技枠 (動画予選枠チーム)	4	予選動画競技 28 (現地参加+リモート参加)	上記本選進出チームを除くチームから予選動画競技のポイントの高い4チームを選抜。※2

※1 予選現地競技で0ポイントのチームは、予選現地競技枠から本選に進出することはできない。

※2 主催者枠[2] 予選現地開催枠[8]を満たさない場合は、予選動画競技枠を増やし、本選に進出する14チームを選抜する。

4. レスコンのフィロソフィー（考え方）

レスキューロボットコンテスト（レスコン）には、レスキューに関する社会的理解を深めていただく一手段としての意味を付している。そのため、このコンテストには以下の原則とコアコンセプトがある。

原則：「レスコンの背後には、常に現実のレスキュー活動が控えている」

コアコンセプト：「やさしさ」

レスコンのフィロソフィーは、レスコンウェブサイトで公開しているので、よく理解して参加されたい。なお、その中の基本姿勢と制限事項をまとめると次のようになる。

基本姿勢1) 他のチームとの相対的な勝敗が第一ではない。

基本姿勢2) 多様な災害状況を考える。

基本姿勢3) 現実のレスキュー現場を想定し柔軟に対応する。

制限事項1) 競技会であるという観点から、競技者や観客の安全を保障しなくてはなりません。

制限事項2) 競技会場の破壊はできるだけ避けましょう。

5. 競技概要

レスコンは、「国際レスキュー工学研究所(注1)」の実験施設として設計されたテストフィールドを用いて救助活動を行うコンテストである。テストフィールドは、大地震で半倒壊となったビルや施設内部を災害現場として、4分の1スケールで模擬している。想定されている災害シナリオに対して、提案システムの評価を行うために、多くの組織のレスキューロボット隊がそれぞれのテストフィールドにて救助活動を行う。

災害現場には、被災した人間を模擬した人形「レスキューダミー」(愛称:ダミヤン)が取り残されている。現場は2次災害などの危険があり人間が近づくことができないので、ロボットだけでダミヤンを救い出し安全な場所まで運ばなければならない。参加チームは、テストフィールドとは壁を隔てた場所におり(屋外を想定)、ロボットに搭載されたカメラの映像と室内カメラからの映像(想定の詳細は後述)だけを頼りに、ロボットを遠隔操縦する。ただし、自律型のロボットを使うことも可能である。ダミヤンにはセンサが内蔵されており、手荒な扱いを受けたかどうかを検知することができる。また、要救助者の容体把握を想定し、胸部記号パターン(QRコード)、発信音および頭部が発光するという個体差が設けられている。個体差の特定は、それぞれ記号パターンの読み取り、発信音の周波数解析、発信音の断続パターン解析、発光色の特定により行うことができる。競技では、これらの個体差識別の成否によって要救助者の容体判定がなされたものとみなされる。よって、いかに早く救助するかということだけでなく、ダミヤンに対する扱いのやさしさ、ダミヤンの容体判定結果の正否も重要な評価基準である。また、第19回レスコンから導入された支援物資提供ミッションに成功すると加点される。なお、レスキュー活動前にはチームのレスキューやロボットに対する考え方をアピールするプレゼンテーションが義務づけられている。

レスコンでは、フィロソフィーに基づきレスキュー工学大賞などいくつかの賞を与える。特に、レスキュー工学大賞は、競技会におけるロボットの完成度、競技結果だけではなく、レスキューに対する考え方や競技内容などを総合的に評価して決定するレスコンで最も意義深い賞である。

(注1) 現在のところは架空の研究所である。

6. 競技会場

競技会場には、左右2組のテストフィールドとコントロールルームが設置され、2チームが同時にそれぞれのテストフィールドで競技を行う。テストフィールド(約 4,500mm×5,400mm)は、ルーム、共通(通路)エリア、救出(屋外)エリアで構成されている。

コントロールルームは隔壁によってテストフィールドと隔てられ、キャプテン、オペレータ、エンジニアはコントロールルーム内で活動を行う。コントロールルームには、高所に設置された固定カメラである室内カメラからの映像用モニター、評価ポイントを映し出すモニター、および、容体判定入力用 PC がある。ただし、室内カメラからの映像は競技開始から一定時間経過後に確認することが出来るようになる。ロボットはテストフィールド内の共通(通路)エリアに接続しているスタートエリア(900mm×1,800mm)からスタートゲート(幅 700mm、高さ 600mm)を通過して出動する。ロボットからの映像表示および遠隔操縦用 PC は、チームが準備し、持ち込む必要がある。

ルームは複数のブロックで構成されている。ダミヤンはいずれかのブロックに配置され、チームはテストフィールド内でダミヤンを発見し、救出を行う。ダミヤンの周囲には複数の障害物が配置されていることもある。また、テストフィールドは2階建てとなっているため行き来するための階段(またはスロープ)などが設置されている。なお、競技会場や障害物のサイズや材質等についての詳細は項目 8 に示す競技規定を参照のこと。

7. ロボット

ロボットは、遠隔操縦型あるいは自律型とする。ロボットのサイズ・重量・機数に制限はないが、スタートエリア内にロボットすべてを配置でき、テストフィールドへはスタートゲートを通過しなければならない。ロボットの遠隔操縦には指定するレスコンボードの使用を推奨するが、それ以外のロボット制御ボード(規定を参照)も使用できる。また、レスコンボード内での自作プログラムの使用を認める。ただし、自作プログラムに起因する障害に関してはチーム責任とする。無線通信だけでなく有線による接続も許可している。飛行ロボットは、テストフィールドの制約上、安全確保が難しいため、出場を認めない。

競技で使用する無線 LAN 通信規格は 5GHz 帯の IEEE802.11ac とする(TPIP2, TPIP3 は、IEEE802.11ac に対応していないため、無線通信は利用できない)。ロボットにアクセスポイントを搭載するなど、実行委員会が準備した無線通信機器および通信規格以外で無線接続を行うことは禁止する。

電池については、リチウムリン酸鉄充電電池、ニッカド充電電池、ニッケル水素充電電池、密閉型鉛蓄電池および乾電池のみ使用を認める。ただし、それら電池は市販状態(注2)のものとする。リチウムリン酸鉄充電電池は、事故の際でも燃焼物を放出しない安全性を有している充電電池であり、これの使用を推奨する。

(注2) ハンダ付け等により充電電池セルを接合した自作電池パックの使用は、充電電池の内部構造を破壊し、充電時の制御が正常に行われぬ恐れがあるため、安全の観点から禁止する。直列や並列に接続する場合は必ず電池ケースやコネクタ等を用いること。特に、充電時は、必ず、その充電電池に付属している取扱説明書にある充電状態を実現できるように使用すること。

8. 競技を行うメンバーの構成

競技を行うメンバーは、次の役割を担当する7名以内で構成される。

- ・キャプテン チームの指揮をとる。リスタートの要請をする。
- ・スピーカー プレゼンテーションをする。
- ・オペレータ ロボットの操縦および整備をする。
- ・エンジニア ロボットを整備する。
- ・通信デバイス管理者 競技会中の通信デバイスの運用を円滑に行うため、自チームの使用するレスコンボードもしくは他の通信デバイス及びそれに関連する機器の管理を行う。
- ・ヘルパー ロボットの退場作業などを行う。なお、ヘルパーは、競技中にテストフィールドに入るため、スピーカー以外の担当を兼務することはできない。

これまでの競技会での実績を踏まえると3名が実際的な最小構成人数と思われる(例:ロボット2機=オペレータ2名でキャプテン、通信デバイス管理者はオペレータが兼務。ヘルパー1名)。

なお、キャプテンと通信デバイス管理者は、担当者を分けなければならない。オペレータは2名までとする。また、競技を行うメンバー数にはコントロールルームへの機材搬入のための人員は含まないものとする。

9. 競技会本選の流れ

競技会本選は、14 チームで行われる。1 回の競技は、次のような流れで行われる。

- | | |
|-------------------------------|----------------|
| 1) 救助活動のコンセプトなどを紹介するプレゼンテーション | 2 分 30 秒×2 チーム |
| 2) レスキュー活動 | 10～12 分 |
| 3) レスキュー活動結果の報告 | 2 分程度 |

10. 競技規定

規定は「レスキューロボットコンテスト 2025 規定」を参照すること。曖昧さを減らすためや、想定していなかった事項に対応するために、書類審査後に 2 回の改訂版公開の可能性ある（競技会予選前、競技会本選前）。競技は、最新の規定に則して行われる。

11. 書類審査、競技会予選

書類審査により採択チームを決定する。全応募チームの中から 2 チームを主催者枠として選抜する。併せて、予選出場チームのうち機器貸与を希望したチームから書類審査順位上位チームより機器貸与チームを決定する。

競技会本選に先立ち、競技会予選を実施する。競技会予選は、すべての予選参加チームから競技会本選に出場する 14 チームを選抜するために行う。14 チームの内訳は、主催者枠 2 チーム、予選現地競技枠に基づく選抜 8 チーム（ただし、競技ポイントを獲得したチームに限る）、および予選動画競技枠に基づく選抜 4 チームである。**参加資格必須条件 2 に示し通り、採択チームは競技会予選に出場しなければならない。**

競技会予選動画は、期限までに提出された 8 分以内の動画に基づいて実施する。動画は事前公開された競技会予選競技課題を各チームが実施した内容とする。詳細はレスキューロボットコンテスト 2025 規定に定めているが、各チームが 2 つの課題フィールドを準備し、ダミヤンを救出し搬送する一連の動画とする（注 3）。さらに、動画撮影用にダミヤン（簡易版）を 1 体各チームに貸与する。

競技会予選は、本選と同じフィールドを使い、目視可能な状態で、予選現地競技の参加チーム（最大 18 チーム）により、競技を行う。予選現地競技で、ポイントの高い 8 チームを本選進出チームとして選定する。本選進出枠は、主催者枠、予選現地競技枠、予選動画競技枠である。主催者枠チームであっても、競技会予選での完成度が極端に低い場合は、棄権勧告を行う場合がある。

（注 3）各チームに予選動画競技フィールド製作補助費を支援する予定である。

12. 機器貸与等について

貸与を希望したチームから書類審査で機器貸与チームに選ばれたチームには実行委員会より、ロボット製作用として、レスコンボード TPIP4 を 2 セットに PWM 増設基板(2 枚)を加え、動作確認用機器を貸与する。TPIP4 の詳細は別紙に示す。

機器貸与チームに選ばれなかったチームは、機器貸与は行われなため、参加チームで準備すること。競技でネットワーク機器に接続して利用できるロボット制御ボード（レスコンボード等）は、規定の「ロボット通信システム」の要件を満たす必要がある。

ロボット制御ボードの使用数は無制限とするが、通信帯域の制約により 5 セット以上では、映像遅延、操作不能などが発生する可能性が高くなる。貸与された機器は、競技会終了後、貸与時と同じ状態で返却すること（注 4）。

（注 4）貸与備品を損傷、紛失等した場合は、実行委員会の指示に従うこと。

13. 参加申込みおよび連絡先等

下記のレスコンウェブサイト内の募集要項バナーより参加申込書類をダウンロードして必要事項を記入し、**2025 年 1 月 31 日(金) 24 時まで**に、下記提出先へ書類一式を添付ファイルとして電子メールにて申込みのこと。なお、添付ファイルの容量が大きくメールが正常に送信できない場合は、データ転送サービス等を用いても良い。書類の記入方法などの詳細については「レスキューロボットコンテスト 2025 参加申込書」を参照のこと。なお、受信後 3 日以内に実行委員会より受取確認のメールを送信するので必ず確認のこと。

申込みの前に、レスコンウェブサイトで、「レスキューロボットコンテストのフィロソフィー」、「レスキューロボットコンテストのストーリー」および「レスキューロボットコンテスト 2025 規定」を入手し、熟読されたい。なお、レスコンの運営上必要となるチームの提出物に関する著作権及び肖像権は全て実行委員会に帰属することを原則とする。また、レスコンの競技参加に関する問い合わせや質問は、電子メールで受け付ける。なお、12月1日(日)にオンライン開催されるロボット×レスキューフォーラム 2024 のレスコンシンポジウム 2024 において、レスコン 2025 の競技説明や直接質問を受け付ける時間を設ける。

なお、応募内容は、レスキューロボットコンテストの運営上必要な範囲でのみ使用する。

レスコンウェブサイトの URL : <https://www.rescue-robot-contest.org/>
参加チーム向けウェブサイトの URL : <https://www.rescue-robot-contest.org/forTeam/>
(随時最新情報を掲載しているので、定期的に関覧されたい。)
問合せ先 : E-mail:office@rescue-robot-contest.org

参加申込書類提出先メールアドレス

entry2025@rescue-robot-contest.org

14. スケジュール

今後の予定は、次の通りである。

項目	詳細
1. 募集開始	2024年12月1日(日) レスコンフォーラム 2024
2. エントリー受付	2025年1月31日(金) 必着
3. 書類審査結果通知	2025年2月17日(月) Webで公表 メールで通知 詳細通知 3月5日(水)
4. レスコンボード講習会	2025年3月22日(土) (1週間前までに貸与機器発送)
5. 競技会予選_動画締め切り	チーム予選提出物・動画締切 2025年6月6日(金)正午期限
6. 競技会予選	チーム機器搬入 6/28(土)午後(接続確認) 競技会予選 2025年6月29日(日)
7. 競技会本選	チーム機器搬入 8/8(金)午後(接続確認) 競技会本選 2025年8月9日(土)-8月10日(日)
8. 機器返却	2025年12月